

17. 泌尿器科 ジュニア・レジデントプログラム

1. 指導責任者：赤尾利弥（泌尿器科 部長）

2. 期間：8 週間、(2 年目選択)

3. 目標

【GIO】一般目標

主として、泌尿器科診断学について学び、将来他科を専攻する場合であっても役立つ知識を身につける。また、実際に行われている手術の概略を、手術に参加することで認識する。

【SBOs】個別目標

- ① 腹部 CT、腹部 MRI の読影ができる。
- ② 泌尿器科に特有な画像検査において、所見を述べるができる。
- ③ 膀胱鏡等内視鏡検査において、異常所見を指摘できる。
- ④ ウロダイナミックス検査で、排尿状態を評価できる。
- ⑤ 入院患者の診療を行い、治療方針を決定できる。
- ⑥ 泌尿器科的な処置を行うことができる。
- ⑦ 電子カルテ上で、カルテの正確な記載ができる。
- ⑧ 患者、家族および他科医師に対して正確かつ平易に説明できる。

4. 方略

LS1（週間スケジュール）

	月	火	水	木	金	土
午前	外来、手術、症例 検討、病理カンファ レンス、	外来、 レントゲンカンファレンス	症例検討	回診、手術 症例検討	外来、 症例検討、	回診 病棟カンファレンス 手術
午後	手術	検査、 対診外来	検査 対診外来	手術	検査、 対診外来	抄読会、勉強会

LS2（勉強会）

1. 3 か月 1 回（土曜日）京大マンスリーミーティングに参加
2. 月 1 回（水曜日）京大関連病院間の勉強会に参加
3. 週 1 回抄読会
4. 院内講習会、セミナーに参加

5. 評価

評価は、4週終了時の中間評価と8週終了時の最終評価の2回を原則とする。4週終了時に自己評価のレポートを提出してもらい、達成度の評価と後半4週の研修目標をたてる。8週終了時に指導責任者との面談で最終評価を行い、EPOCにも記録を残す。

6. その他

泌尿器科は、診断から治療までのプロセスを一貫して行うことの出来る自己完結型の診療科である。尿路手術を施行する際には、尿路以外の腹腔内臓器を含めた正確な解剖学的知識が必要である。泌尿器科は、画像診断の進んだ科であり、近年の進歩著しい画像診断法が術前の情報を得るのに大きな力となっているが、これら画像の読影力を強化することは他領域の臨床医学を行う上でも必ず役に立つと考える。この点において初期研修に一役買うことが出来ると考えている。